

役員一覧

役員一覧 (2024.6.21現在)														
	中澤 宏	兼間 祐二	小林 正彦	高田 芳政	坂本 嘉和	西野 太郎		大塚 直久	北川 博邦	眞鍋 雅昭	舟本 馨	小川 万里絵	横井 裕	牧野 真也
略 歴	1986年4月北陸銀行入行。経営企画、営業部門に携わる等、経営全般に豊富な業務経験を有しています。2022年6月より現職。	1987年4月北海道銀行入行。経営企画、人事、市場、GX部門に携わる等、豊富な業務経験を有しています。2021年6月より現職。	1987年4月北陸銀行入行。経営企画、人事、営業、GX、DX部門に携わる等、豊富な業務経験を有しています。2019年6月より現職。	1989年4月北海道銀行入行。営業、GX、DX部門に携わる等、豊富な業務経験を有しています。2021年6月より現職。	1987年4月北陸銀行入行。融資部門に携わる等、豊富な業務経験を有しています。2022年6月より現職。	1987年4月北海道銀行入行。リスク管理、事務・システム部門に携わる等、豊富な業務経験を有しています。2024年6月より現職。		1990年4月北陸銀行入行。人事、リスク管理部門に携わる等、豊富な業務経験を有しています。2024年6月より現職。	1987年4月北陸銀行入行。経営企画部門に携わる等、豊富な業務経験を有しています。2019年6月より現職。	株式会社ほくやく・竹山ホールディングスの代表取締役会長として経営に携わり、企業経営者として豊富な経験と幅広い見識を有しています。	警察庁と整理回収機構の要職を歴任し、コンプライアンスや金融分野の豊富な経験と幅広い見識を有しています。	日本銀行の要職を歴任し、金融・法務分野における豊富な経験・知見に加え、地域経済やダイバーシティ推進にも幅広い見識を有しています。	外務省の要職を歴任し、外交を通じて培われた国際感覚と、世界の情勢や経済・事業環境に関する豊富な見識を有しています。	明治安田生命保険相互会社の取締役代表執行役副社長として経営に携わり、企業経営者として豊富な経験と幅広い見識を有しています。
当社における 地位および担当	代表取締役 社長	代表取締役 副社長 SX推進部 担当	取締役 営業戦略部 担当 DX推進部 担当 SX推進部 副担当	取締役 営業戦略部 副担当 DX推進部 副担当 SX推進部 副担当	取締役 融資企画部門 担当	取締役 事務・システム 部門		取締役 リスク統括部	取締役 監査等委員	社外取締役 監査等委員	社外取締役 監査等委員	社外取締役 監査等委員	社外取締役 監査等委員	社外取締役 監査等委員
企業経営	●	●	●	●					●	●	●			●
人事		●	●	●				●				●		●
コンサルティング	●	●	●	●	●	●		●	●					
リスク管理・コンプライアンス						●		●	●		●	●	●	
市場	●	●						●						
グローバル	●			●					●				●	
IT・DX	●	●	●	●		●								●
GX	●	●	●	●										
金融	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●		●
財務・会計	●	●	●	●					●					●

【執行役員】

経営企画部・人事戦略部
市場金融部

浦崎 滋
玉作 明寛

経営企画部(副)・人事戦略(副)・市場金融部(副)
融資企画部門(副)

山崎 徹也
山本 修

事務・システム部門(副)

辰島 剛

■ 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

株式会社ほくほくフィナンシャルグループ、株式会社北陸銀行、株式会社北海道銀行の3社と監査契約を締結しています。

株式会社北陸銀行	取締役・監査役	取締役会長 取締役 庵 栄伸 山崎 徹也	取締役頭取 取締役(社外) 中澤 宏 山崎 光悦	取締役 常勤監査役 小林 正彦 沼田 康至	取締役 坂本 嘉和 監査役(社外) 八木 誠一郎	取締役 辰島 剛 監査役(社外) 久和 進	取締役 浦崎 滋 監査役(社外) 奥村 浩子	取締役 大塚 直久
株式会社北海道銀行	取締役・監査役	取締役会長 取締役 笹原 晶博 浦崎 滋	取締役頭取 常勤監査役 兼間 祐二 鈴木 誠	取締役副頭取 監査役(社外) 高田 芳政 岩村 修二	取締役 山崎 徹也 監査役(社外) 千葉 智	取締役 会田 朋生 監査役(社外) 五十嵐 智嘉子	取締役 西野 太郎	

社外取締役座談会

当社グループの企業価値向上に向けて、 取り組むべきこと

多様なバックグラウンドと専門分野をもつ5人の社外取締役により、
当社グループの企業価値向上について座談会を実施しました。
フィナンシャルグループ発足から20年。事業環境が大きく変わる中、
持続的な成長のため一体感をもって精力的に課題に取り組んでいきます。



牧野 真也 社外取締役監査等委員

眞鍋 雅昭 社外取締役監査等委員

横井 裕 社外取締役監査等委員

小川 万里絵 社外取締役監査等委員

舟本 馨 社外取締役監査等委員

社外取締役から見た当社グループの 強み、課題をお聞かせください。

眞鍋 私は社外取締役として8年目ですが、この間に
ほくほくFGは大きく変化したと思います。私なりの
解釈ですが、当社グループの強みは、風土も成り立ち
も地域も違う、2行の融合から生まれるエネルギーに
あると思います。

その一方、それは、大きな課題でもあります。変化する
事業環境の中で新しい業態、新しい力をどう生み出して
いくのかが重要になります。

横井 当社グループの強みは、2行が北海道という共通
の基盤に立ちながら異なるやり方でマーケットを見て
きたことではないでしょうか。

いま北海道には歴史上でも数えるほどしかない、大きな
チャンスが来ています。半導体大手Rapidus社のような
巨額な投資はこれまでなかったですし、この先を見ても
産業の成長に最も必要なクリーンエネルギーを誘致
できるのは、日本の中では九州の一部を除いておそらく
北海道しかないと思います。これをしっかり機会ととら

えるために2行の異なる視点と知見が大きな要素に
なると期待しています。

舟本 北陸と北海道、それから東京、名古屋、大阪という
大都市圏、これほど広域な営業エリアを有している
地銀は他にありません。この点は強みであると同時に
課題と言えます。

私もこの3～4年で、ほくほくFGはずいぶん変わった
ように思います。それは社会環境が変わりつつある中、
連携をさらに進めていくにはどうしたらよいか、より踏み
込んで考えるようになってきたからだと感じます。

取締役会の実効性を高めるためには、何が重要でしょうか？

眞鍋 私は高い透明性と各取締役が批判を恐れず活発
に議論するといった独立性が重要だと感じています。

横井 前提として、経営層や組織が何を目指しているの
かという目的が、理念も含めて明らかになっている必要
があると思います。取締役会でもそれに即した形で忌憚
なく意見を言える、それが許される雰囲気であることが
このグループの取締役会の強さでもあると感じます。

舟本 準備段階で執行側が意識し、我々も意識する、
その両方が必要だと思います。事前に資料を作成して
もらい、事務局とミーティングを丁寧に行うことで、本番
での議論の活性化につながります。

小川 重要な問題は、より時間をかけ、舟本さんも



おっしゃったように事前背景の説明が必要なものについては補足説明、補足資料を充実させるなど、そういう議題の選び方や説明、プレゼンの仕方がポイントになると思います。

牧野 取締役会は時間も含めていろいろな制約がありますので、マテリアリティ(重要課題)の選定がとても大切です。取締役会にとって重要なことは、中長期目線での課題や全体最適について拾い上げて議論の質を高めることではないかと考えています。

持続的な成長のために、 当社グループは中長期でどんなことに取り組むべきでしょうか？

眞鍋 私自身はやはり人だと思います。ほくほくFGの一番の強みは地域とのコミュニケーションです。先日、社外取締役と若手職員が意見交換する機会があったのですが、シナジーを発揮したり、両行のよい部分を持ち寄ったりといった部分では皆さんの認識がまだ十分とは言えません。逆に言えばそこに伸びしろがあると思います。

舟本 私も眞鍋さんが言われたように、やはり組織は人だと思います。人が組織を作り、組織が人を育てていくので、結局は人の問題に帰着します。役員から若手まで全職員が一体感を醸成し、発展につなげることが中期的に取り組むべきことだと考えます。

横井 銀行というだけで就職したい学生が多くいる時代ではありません。さらに、入社しても、転職することが



当たり前になっています。それをいかに避けるかということではなく、若い人たちが会社に入ってスキルアップし、よい経験を積んで自分自身の価値を高めて次にチャレンジするのが普通の世の中になっていることを前提に、当社グループもスキルアップができて、場合によっては他の業界で力をつけた人たちが選んでくれるような、新しい企業風土や労働環境を実現することが重要であると考えます。

小川 人を育てる、人を大事にする、やりがいを感じてもらうことが一番重要だと思います。

当社グループにおいても既存の枠組みを超え、社内から人材を登用するだけではなくて、能力を持った人たちの採用しようという動きがこの1、2年で非常に強まってきていると感じます。銀行独特の年次や同期で決まるというような画一的な人事制度から、いろいろな人たちがいて、一人ひとりが能力を発揮してもらうという傾向が出てきたことは、とても良いことだと思います。

牧野 これから日本は人口が確実に減少していきますし、社会構造や消費行動も多様化していきますから、この先5年、10年で企業は非常に大きな変化にさらされると思います。その中でやらなければいけないことは、プライムエリアでのプレゼンスが相当高く、それに対するブランドも持っている当社グループの強みをさらに伸ばすこと、そして今あるものが成長につながるのかを検証することです。

社外取締役として今後取り組みたいことを教えてください。

牧野 社外取締役に求められているのは、基本的には客観性と専門性だと思います。私は広い意味での金融サービス業のキャリアが長いので、そこに対してはできるだけ専門性を発揮していきたいです。また、私が取り組んできた生命保険事業は地域事業の集合体ですので、地域戦略的なところについて有用な視点や意見を提示できるのではないかと考えています。

それからもう一つ、これは個人的に特にこれからの若い人たちがそうだと思うのですが、企業価値について財務諸表に示される経済的価値と社会的価値の両面から評価する社会になってきています。その企業が事業を通じてどのような社会課題を解決できるのかを考え経済的価値と社会的価値の双方に均整の取れた成長をしていかないと、企業が社会から広く支持されることは難しい状況になっています。そのあたりのバランスを社外取締役として関心を持って見ていきたいと思います。

小川 今はどの地域金融機関も生き残っていくために、不断の経営努力をしなければいけない中、さまざまな新しい経営課題が出ています。そこに関してはさらに知見を深め、有益な議論に参画できるように努力したいと思っています。

横井 私は個人的には具体的なプロジェクトや課題への取り組みを通じて、企業の体質や組織、仕事の仕方が変わらと思っています。人事面や会計面でどうするかと発想するよりも、目の前にある課題に取り組む、挑戦することで企業は変わります。先ほども触れましたが、Rapidus社の進出が北海道経済や日本経済に与える巨大なインパクトを利用しながら、ほくほくFGが成長し、かつ変わることを期待しています。

舟本 私は当社グループにとって、地域に根差した金融グループであることは将来にわたる不易価値であると思います。人口が減少し、地域経済が変化している中、コンサルやDX、SXなどにチャレンジするというところも、結局帰着するのは地域に根ざした金融

グループであり続けるというところではないでしょうか。そこから外れてしまうと、存在意義が失われます。そういう目線でいろいろな取り組みを見ていきたいと思っています。

また、組織運営、企業ガバナンスに必要なコンプライアンスの観点についても社外の立場からしっかり助言したいと思っています。

眞鍋 私自身は社外取締役の立場で、生活者の視点から、もっと言えば銀行の枠、業態の枠の中での意見ではなく、北陸、北海道という地域の枠も超えて、外から見た意見をもっと積極的に発言していきたいと思っています。

たとえば営業エリアを北陸と北海道をつなぐ東北地域まで広げられないか、あるいは、金融業だけでなく生活者や企業が求めているものに答えを出すような形で業態をもっと広げられないか、そんな試みをする戦略があってもよいのではないかと、そういう視点で物を言っていくことが私の役割と考えています。

